地域包括ケアの時代における地域・在宅看護の専門性

関連するSDGsの国際目標



人間看護学部　人間看護学科　　教授　　新井　香奈子
研究分野：地域・在宅看護学　老年看護学

地域共生社会の実現を見据え、現在わが国では全世代を対象とした地域包括ケアシステムの構築が急がれています。多様な病気や障害を持ちながら地域で暮らす療養者・家族の支援や支援体制、および看護職の専門性の確立に貢献したいと考えています。

■難病支援終了事例検討会（デスカンファレンス）を土台にしたALS患者支援体制の構築

ALS療養者への難病保健活動（健康福祉事務所）を実施する中で見えてきた課題の解決に向け、平成29（2017）年から健康福祉事務所を実施主体としたデスカンファレンスに助言者として参加しています。事例の全経過を多職種間でポジティブシンキング思考で振り返り、次の支援に生かすことを積み重ねることは、支援者の資質向上や連携強化につながりました。また、このカンファレンスを土台に地域課題および地域の強み抽出に向けた検討を実施し、ALS患者支援体制（レスパイト入院先の確保、在宅での看取りなど）の構築を図っています。

■医療的ケア児の地域支援体制の構築

医療的ケア児の支援者として関わる県と市の保健師が共同で実施した、１）医療的ケア児ニーズ調査、２）医療的ケア児地域資源把握調査に助言者として参加しています。令和2年には、その結果報告の場（保健・医療・福祉・教育・行政他）において、各機関の課題と今後の取り組みについての共有・確認を行いました。この会議の場は、顔の見える関係づくりとＡ市の医療的ケア時の地域支援体制構築の第一歩につながりました。

■がん患者・家族の意思決定を支える在宅の場の認定看護師による看護相談室の開設

Ｂ市内の複数の訪問看護ステーション所属の認定看護師とがん患者・家族に対する看護相談室を地域に開設し、個別相談とグループ相談（サロン）を定期的に実施しました。参加者の許可のもと相談内容の分析を行いました。相談に来られた方は、診断後間もない、治療中、治療終了後の訪問看護利用経験のない患者本人や家族でした。この相談室では、相談者が利害関係なく、治療や身体状況、医療者との関係、家族関係など様々な苦悩を認定看護師に安心して話すことのできる場となりました。この話すという行為は、自らの思いの整理と自己決断していくことにつながり、また過去の体験（苦悩）に対するグリーフケアの場ともなりました。認定看護師の看護専門職としての機能の充実につながりました。

■高齢者へのフットケアによる介護予防支援

デイケア利用の高齢者に対し週1回のフットケアとセルフケア指導を行い、足指・爪の状態と自覚症状、運動機能、QOLの視点からの分析を行う調査を実施しました。高齢者の多くに皮膚・爪・足のトラブルが生じていましたが、1回20分の看護師によるフットケアにより、皮膚・爪、循環状態の改善がみられました。また、本人だけでなく家族の「足」への興味が高まり、爪切り方法の改善、靴下・靴の選び方や着用の仕方などのセルフケアの向上につながりました。継続的なフットケアを楽しみに、デイケアを休む回数の減少も見られました。このように、一足飛びに運動機能改善には至りませんが、高齢者の自立支援、介護予防支援につながった支援となっています。

■高齢者の口腔機能向上を促す支援の開発や摂食・嚥下障害者の主介護者に向けた支援

地域で生活する一般高齢者を対象に、口腔機能向上のセルフマネジメント力を高めるプログラムの開発やその効果の分析に関わっています。また、摂食・嚥下障害者の主介護者への訪問看護師による支援についての検討も行い、多職種協働による支援体制の確立や訪問看護師の専門性の確立を図っています。